



ゆもとと通信 大田区 地元の『ゆもと』

自由民主党大田区民連合 幹事長
大田区議会議員(4期目)

大田区の政策提言

第20号

2022年12月28日 発行

明日のために「今やるべきこと」がある!!

任期4年間を振り返ってみる

「主な出来事」に関連する区政課題について本会議や委員会などで発言をした公式発言の一部をまとめました。

令和元年(2019年)

- 平成から令和へ 元号は変わる
- ラグビーワールドカップ日本が8強入り
→東京オリンピック・パラリンピックへの気運が盛り上がる。オリパラ観戦のパブリックビューイングの設置や蒲田駅に常設の大型街頭ビジョン設置提案。
(区政情報や災害情報、民間の広告などの発信を目的)
- 消費税10%へ引き上げ
- 台風15号・19号により甚大な被害を受ける
→震災に加えて、風水害への災害対応を見直し。激甚化する自然災害に対応できる様にと風水害の想定レベルを見直しと、改めて総点検を要望。
- 改正児童虐待防止法が成立(令和2年4月施行)
→児童相談所への相談件数が過去最高(令和元年19万3780件)
きめ細かい対応を求めると共に、児童相談所設置を改めて要望。

令和2年(2020年)

- 役職 子ども文教委員会副委員長
- カルロスゴーン 不正出国容疑で逮捕状
 - 高輪ゲートウェイ駅 開業
 - 新型コロナウイルス感染拡大 緊急事態宣言発令
→公立小中学校では学校現場に混乱が生じる、全校への対応一本化とICT環境の早期整備を要望。
 - 東京2020オリンピック・パラリンピック延期決定
 - レジ袋有料化
 - 小池百合子氏 都知事再選
 - 大田区で3歳児自宅に放置死事件発生
→行政として虐待防止にどこまで踏み込めるか、虐待死を防ぐ為に何をすべきか、子ども文教委員会副委員長として行政へ提案
 - GDP27.8%減 戦後最大の下落
→給付金の申請支援や企業への利子補給など、区内経済を支える産業支援策を要望。
 - 菅内閣発足
 - 5Gスマホ 各社販売
→5G対応に向けて公的施設のデジタル通信環境の在り方について方向性を確認。
 - 大阪都構想 住民投票で反対多数

令和3年(2021年)

- 役職 自民党(大田区議会)政務調査会長・副幹事長・健康福祉委員会委員長
予算特別委員会委員長・後期高齢者広域連合議会議員(大田区選出)
- 新型コロナウイルスワクチン接種開始
→集団接種と個別接種の仕切り方について議会でも議論が紛糾する。集団、個別併用での運用を提案
会場確保、医療スタッフ確保、ワクチン確保、区民への接種券配布、情報発信など多岐に渡る対応を健康福祉委員会委員長として行政へ提案する。また、補正予算可決に奔走。
 - 温室効果ガス46%削減目標となる
 - 都議会議員選挙 自公で過半数届かず
 - 東京2020オリンピック・パラリンピック開催
→開催後のレガシーの残し方について区の考えを確認。「オリンピックという祭りが終わったのでスポーツ支援は終わり」とならない様に指摘
 - デジタル庁発足
→人口減少社会への対応としてデジタル化と海外人材の活用は社会課題
この課題への対応方針について問題提起
 - 岸田内閣発足
 - 衆院選 自民単独過半数

令和4年(2022年)

- 役職 自民党(大田区議会)幹事長・後期高齢者広域連合議会議員(大田区選出)
ICT化調査研究会 会長・政務活動費検討会 会長・国際都市おおた協会評議員
大田区スポーツ協会 評議員
- 北京冬季オリンピック・パラリンピック開催
 - ロシアがウクライナへ侵攻
 - 新空港線(通称 蒲々線)東京都と大田区が費用負担などに合意
→40年かけた大田区東西交通網の整備事業実現に向けて、議会から大田区長を支援
都市機能更新の起爆剤として新空港線の重要性を何度も提言。
 - 安倍晋三元総理銃撃事件
 - 参議院選挙
 - 安倍晋三元総理 国葬
→国葬をめぐり世論が割れる議論に。大田区の対応を巡っても議論があったが自民党(大田区民連合)より反旗掲揚を区長へ要望。大田区役所で国旗・区旗半旗掲揚へ。
 - ドル円相場大幅な円安 115.15円(令和3年末)から150.15円(令和4年10月20日)へ
→ロシアのウクライナ侵攻やアメリカ利上などの影響により日本の物価が上昇
区民生活に多大な影響が生じる。国や都の支援が行き届かない子育て世帯を所得制限なく支援を行う様に要請
 - サッカーワールドカップ開催 日本ベスト16
 - 五輪汚職・元理事長逮捕

議会の発言 また、継続的に

- ・防災、台風
- ・児童虐待防止
- ・スポーツ振興
- ・鉄道事業
- ・新型コロナ対応
- ・環境対策
- ・経済対策
- ・デジタル化対応
- ・インフレ(物価高)対応
- ・学校教育の質の向上
- ・いじめ撲滅の実現
- ・不登校児童の教育支援
- ・幼児教育と子育て支援
- ・切れ目ない子育て支援
- ・働き方改革(協同労働法など)
- ・少子化対策
- ・高齢者を支える施策強化
- ・障がい者支援の強化
- ・安心安全なまちづくり
- ・新たな文化振興支援の模索
- ・動物との共生社会
- ・海外人材と区内経済の結節強化
- ・私道整備補助拡充
- ・区道の計画的整備
- ・財政運営方針について提言 など

議会の発言や政策判断で最も重視した点は

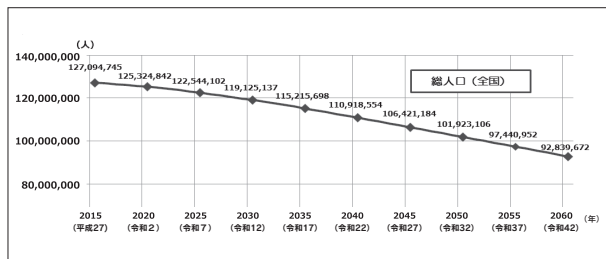
『次世代への継続性』

今日までの経緯を大事にして、これから先をつくる。この考え方を軸に政務活動を行ってまいりました。

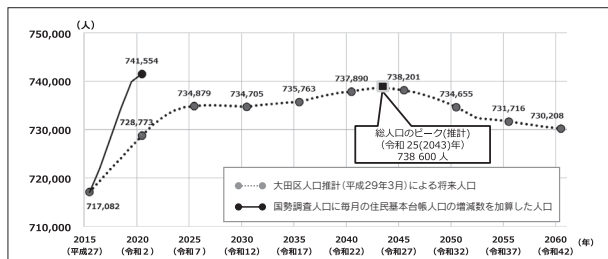
これからの大田区について

社会背景

15年前から人口動態については絶えず課題意識をもって区政に臨み、区の政策決定が少子高齢化に効果を発揮する様にこだわって行政に提言や指摘を行ってきました。団塊の世代の方々が70代半ばになり、本格的な高齢社会をむかえました。高齢社会への対応策は健康長寿社会に向けての予防の促進や在宅支援サービスの適正化、特養を含む施設数の充足など計画的に行ってきました。すべての課題がクリアされている訳ではありませんが高齢化社会への適応は一定の成果を上げていると言えます。



▲【全国の総人口の推移】

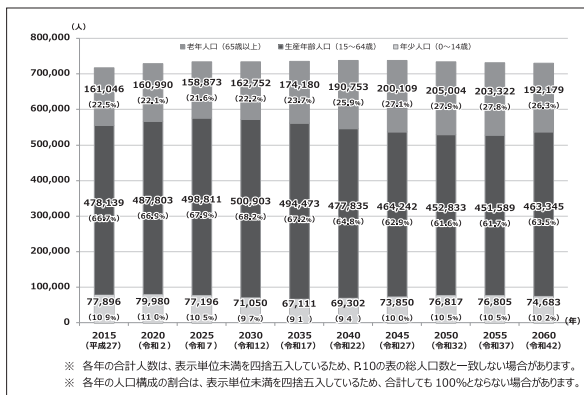


▲【大田区の総人口の推移】

一方、少子化に目を向けると子育て支援の象徴的な政治課題であった「保育園の待機児解消」を達成しても「出生率の低下」に歯止めがかかっていません。社会の継続性を考えたときに、次の社会を受け継ぐ人が毎年約60万人自然減を続けているこの状況に危機感を覚えている方は多いと思います。ここ最近、報道特集で少子化がかなり深刻な国家的課題となっていることへの警鐘が多く見受けられます。政府の方針にも『こども予算倍増する』という言葉が聞かれるようになってきました。このことをずっと問題提起をしてきた私としてはようやく若い世代に政治のスポットがあたる時がきたという思いです。

社会の見通しに不安があるから結婚しない、子どもは持てないという若年層の意識を大きく変える政策を大胆に打つ必要があると私も考えます。また、いま子育てをしている方の中には、もう一人子どもが欲しいけど経済的な理由であきらめている人も少なくありません。効果的な少子化対策として、その気持ちに応える支援施策も充実させていく必要があります。

実際に子育てをしている親世代が「共感してくれる行政サービス」の充実を図れば、「これから子どもを産み育てる世代」の意識を変えることにつながります。以前の世の中だと今の若者は贅沢だとされ、現役世代の悩みはわがままとされてきて、子育て支援がなかなか充実してこなかった側面は否めないとします。まずこの意識を変えて**全世代のバランスと継続性が保てる社会を目指す**



▲【人口構成の推移】

という立ち位置を起点に、区政展開を図って行きたいと思います。**高齢者社会を支える現役世代を支え、若者には様々なことにチャレンジしたいと思える期待や希望があふれる躍動感のある未来を示す。** そんな世代間の良いバランスを作り出して行きます。

高齢者の一人暮らし・高齢夫婦でも安心 これからも慣れ親しんだ街で暮らせる大田区へ

10年前に高齢化社会のイメージをし、高齢社会への対応を行ってきましたが、本格的な高齢化社会を実際に迎えています。

大田区では、在宅支援サービスを適切に受けられる様に介護サービスを整えたり、介護サービスを提供する現場で働くひとの確保支援など、高齢者が慣れ親しんだお家で生活の継続をはかれる地域社会を作ってきました。また認知症や肢体不自由など在宅支援では生活が困難になった場合は特養や認知症グループホームなど、施設に入所して生活を送れる様に施設の数の充足も計画的に行って参りました。100点満点という訳ではありませんから、サービスの充実や施設の増設など引き続き環境整備を進め、高齢者の生活の見通しに安心感を作らなければなりません。また、社会的課題となっている一人暮らしの高齢者の見守りについて考えていかなければなりません。高齢者の一人暮らしには、突然のアクシデントに対応できないというリスク(危険)が高くあります。このリスク(危険)を軽減するには地域社会でひとり暮らしの高齢者を見守る体制支援や、社会と高齢者をつなげて、高齢者を孤立させない工夫が必要であると考えます。実はデジタルの活用が高齢者にはとても役立つツール(道具)となりますが、**高齢者とデジタルは相性があまり良くない。**なので、高齢者がデジタルを使える様な支援を、行政や地域社会で行える工夫を進めていくことが有効な支援策になっていくと思います。

また、高齢者の皆さんは日中に様々なサークル活動を行っています。公園や文化施設など区民利用の少ない時間帯に高齢者の皆さんが集まれる拠点として公共施設をもっと有効に活用できる工夫を更に進めていきたいと思います。高齢者が社会とのつながりを持ち、健康に安心して暮らせる大田区を更に目指します。

特養・認知症グループホーム 施設数・定員 15年間推移

特別養護老人ホーム			認知症高齢者グループホーム		
平成19年	11施設	1320定員	平成19年	15施設	
	↓	↓		↓	
令和4年	19施設	1906定員	令和4年	41施設	

今後も計画的に施設を整備して参ります

区政に対するみなさまのご意見をおきかせ下さい！

大田区議会議員 ゆもと良太郎事務所

〒143-0011 東京都大田区大森本町2-31-10 TEL.03-3765-1464 FAX.03-3765-1482
<http://www.yumoryo-otacity.jp> info@yumoryo-otacity.jp

ゆもと良太郎 プロフィール 46歳3児の父

昭和51年5月10日

大田区大森生まれ(A型)。大森幼稚園・大森第五小・日大三中・日大三高を経て明治大学商学部貿易コース卒。都議会議員秘書を経て、

平成15年4月

大田区議会議員選挙に自由民主党公認若干26歳で初出馬、初当選(5536票)。66候補者中、新人1位。

平成19年4月

大田区議会議員選挙にて2期目の当選(5419票)。

平成27年4月

大田区議会議員選挙において3期目の当選(5523票)。

平成31年4月

大田区議会議員選挙において4期目の当選(7794票)。

自由民主党大田区民連合 幹事長

令和四年度所属委員会

- 大田区議会ICT化調査・研究会会長
- 大田区議会政務活動費検討会会長